

平成28年熊本地震に関する都医療救護班等の派遣について

熊本県の被災状況

※出典：第43回熊本県災害対策本部会議資料
第38回政府現地対策本部会議資料

特に、熊本市、阿蘇市及び益城町の被害が甚大

(震度7の地震)

1 人的被害

死者69人

《内訳》①警察が検視により確認している死者数 49人

②震災後における災害による負傷の悪化
又は身体的負担による疾病により死亡
したと思われる死者数 20人

発生日	発時時刻
4月14日	21:26
4月16日	1:25

2 避難状況（最大時：4月17日9時時点）

《参考》現在の状況 ※6月28日時点

避難者数 183,882人 避難者数 5,154人

避難所数 855か所 避難所数 118か所

3 医療機関等の物的被害

病院等 453か所（壁はがれ等）

精神科病院 24か所（外壁ひび等）等

《厚労省調査 4/30》

熊本周辺の主要な医療機関の被災が想定され、厚労省が直接確認した131施設

- ・建物損壊のリスクあり 8か所（患者は転院済）
- ・問題なし 123か所

被災地への派遣実績

※派遣医療機関等は右表の参照

- 4月14日 地震発生（21時26分）都内DMATに待機命令→待機解除（4月14日23時44分）
- 4月16日 地震発生（1時25分）都内DMATに待機命令
- 4月17日 DMAT事務局を通し都内DMAT10チームの派遣要請→要請を受け派遣決定
都と都医師会との協定に基づき、都医療救護班3班を派遣
- 4月18日 都内DMATが熊本赤十字病院へ参集し、19日から活動開始
現地の状況を詳細に把握するため都職員（3名）を派遣
- 4月21日 都内DMAT撤収
都医療救護班を追加で3班派遣（最大時5班）
- 4月23日 DMATロジスティックチーム隊員を東京医療センターから1名派遣
- 4月29日 医療ニーズなどを踏まえ、都医療救護班3班の派遣体制に移行
（病院支援2班、県本部支援1班）
- 5月11日 都医療救護班2班の派遣体制に移行
（病院支援1班、県本部支援1班）
- 5月18日 都医療救護班1班の派遣体制に移行
（県本部支援1班）
- 5月21日 都医療救護班の派遣を終了

【都の派遣実績】

区分	派遣期間	主な活動内容
都内DMAT		
北医療センター	4月18日～4月21日	避難所支援（処方担当）、DMAT本部支援等
日野市立病院		病院支援（ER夜勤）
順天堂大学医学部付属練馬病院		病院支援（ER夜勤）
慶應義塾大学病院		避難所支援（診療担当）
新渡戸記念中野総合病院		病院支援（ER夜勤）
東京医療センター		DMAT本部支援
帝京大学医学部附属病院		DMAT本部支援
東京医科歯科大学医学部附属病院		DMAT本部支援、病院支援（ER日勤）
都立広尾病院		病院支援（ER夜勤）
都立多摩総合医療センター		DMAT本部支援
都医療救護班		
白鷺橋病院	4月17日～4月20日	病院支援（患者管理）
南多摩病院	4月17日～4月28日	病院夜勤、避難所の巡回診療
永生病院	4月18日～4月24日	病院の日勤・夜勤、避難所の巡回診療
日本医科大学病院	4月21日～4月25日	避難所支援、病院支援（ER）日勤・準夜
都立墨東病院	4月21日～4月25日	避難所巡回診療
災害医療センター	4月22日～5月21日	熊本県医療救護調整本部支援
平成立石病院	4月25日～4月28日	病院支援（ER）日勤・準夜
都立駒込病院	4月25日～4月29日	病院支援（ER）日勤・準夜
等潤病院	4月28日～5月1日	病院支援（ER）日勤・準夜
都立大塚病院	4月29日～5月3日	病院支援（ER）日勤・準夜
白鷺橋病院	5月1日～5月4日	病院支援（ER）日勤
都立広尾病院	5月3日～5月7日	病院支援（ER）日勤・準夜
いずみ記念病院	5月4日～5月7日	病院支援（ER）日勤・準夜
多摩総合医療センター	5月7日～5月11日	病院支援（ER）日勤・準夜
江東病院	5月7日～5月10日	病院支援（ER）日勤・準夜
健康長寿医療センター	5月11日～5月15日	病院支援（ER）日勤・準夜
豊島病院（公社）	5月15日～5月17日	病院支援（ER）日勤・準夜
DMATロジスティックチーム隊員	4月23日～4月29日	救護班活動手引き作成、保健所への物資搬送
都派遣職員	4月18日～5月7日	県庁での情報収集、都医療救護班支援